

### 36. Pyrophosphate (Sn) 前処置による Choroid Plexus の描出

駒谷 昭夫 高宮 誠  
渡会 二郎 高橋 和栄  
山口 昂一  
(山形大・放)  
上村 和夫  
(秋田脳研・放)

RI 検査でも脳室系の描出ができれば、従来の脳 scintigraphy とは異った別の診断情報が得られるものとする。われわれはむしろ積極的に Choroid Plexus への RI 集積を図る方法と、その imaging の有用性について検討した。

〔方法〕 前処置としてテクネ標識用 (Sn)-Pyrophosphate (第一ラジオアイソトープ製) 1 vial に生理食塩水 5~10 ml 加えて溶解したものを静注し、その後 24~48 時間に  $^{99m}\text{Tc}$ -pertechnetate 10mCi を静注する。その直後から Scinticamera で経時的に頭部の imaging を行ない Choroid Plexus への集積の状態を観察した。

〔結果〕 Choroid Plexus への集積は  $^{99m}\text{Tc}$ -Pertechnetate 静注後 5 分位から認められ、時間の経過と共に明瞭になっていくが、decay による count rate の減少も考慮すると実用上 3 時間位が最も良い timing と判断され、この時期の像では前角を除くほぼ全体の脳室が明瞭に認められた。

〔結論〕 脳室系の変形がわかる程明瞭な Choroid Plexus の描出ができるので、従来の脳 Scintigram の方法では RI を取り込まない space taking lesion の診断には有用な方法と考える。

### 37. 脳疾患における RI 異常集積像と手術所見との比較

福士 盛大 畠山 隆  
西沢 一治 市村 博  
篠崎 達世  
(弘前大・放)  
神 康  
(同・中放部)  
伊藤 トシ  
(同医短大・放)

頭蓋内疾患における  $^{99m}\text{TcO}_4^-$  使用脳シンチ 4 像の RI 集積、時間的変化、病巣の鮮明さについて検討した。髄膜腫は 80% に漸減型、67% に高い集積を示し、星細胞腫は全例に漸増型、多形性膠芽細胞腫は 70% に漸増型 80% に辺縁不鮮明、神経鞘腫は全例小脳橋角部に辺縁鮮明な漸増型、下垂体腫瘍は RI 集積の時間的変化は、はっきりしないが辺縁明瞭な高度集積像を呈した。転移性腫瘍は漸減型は示さず集積は高かった。血腫は 60% に漸増型を呈し境界は 80% に不鮮明だった。30% に crescentic sign が認められた。AVM は 70% に漸減型を示し、平行型は dural AVM であった。梗塞は漸増型が 83% で、発作後シンチ施行までの期間は 2~4W に 80% あった。動脈瘤は 2 例共漸減型を示した。以上により、病巣の RI 集積、鮮明さ、時間的変化をくみあわせることにより RI 脳疾患診断を確立していけると思われる。